

## 平成30年度1月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成31年1月9日(水) 午前11時00分～午前11時50分  
場所 市役所2階 第1委員会室  
出席 市政記者クラブ 11社

### 会見内容

#### 1. はじめに(1項目)

- 皆さま、新年あけましておめでとうございます。  
穏やかに新年を迎えましたこと、心からお慶び申し上げます。  
新年を迎えて最初の記者懇談会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
- 昨年は、中央図書館のオープン、平昌(ピョンチャン)オリンピックでの釧路にゆかりのある選手の素晴らしい活躍、LCCピーチ・アビエーションによる釧路-関西定期便の就航、「国際バルク戦略港湾 釧路港 国際物流ターミナル」の完成式典の開催、さらには、いずれも北海道では初めてとなる釧路市ビジネスサポートセンタ「k-Biz(ケー ビズ)」の開設、延べ1万4,000人もの皆様にご参加をいただき、大盛況のうちに閉幕した「エンジン01 in 釧路」の開催など、明るい話題が相次いだところであります。
- 一方で、国内では豪雨、台風、地震など、多くの自然災害に見舞われた年でもあり、北海道においても、昨年9月6日未明に発生した震度7の「胆振東部地震」により、大勢の方々が犠牲になられるとともに、釧路市におきましても、地震直後に発生した大規模停電により市民生活や経済活動などさまざまな分野において大きな影響を受けたところであり、改めて国土強靱化の必要性を強く認識したところでもあります。
- また、年末には、設立してから約70年もの歴史を持つ「日本製紙クレインズ」の廃部という非常に残念な発表もありました。現在、チーム存続に向け、新たな受け入れ先を探していること、またクレインズファン有志により、チーム存続を願っての署名活動を開始したところであり、釧路市としても一体となって取り組むとともに、さまざまな情報収集に努めてまいりたいと思っております。
- 本年は、いよいよ今月29日より、第74回国民体育大会冬季大会「イランカラプテくしろさっぽろ国体」が開幕し、スケート競技会、アイスホッケー競技会を開催します。出場する釧路市ゆかりの選手の活躍を期待し、応援するとともに、全国から集う選手、役員の皆さまを、市民の皆さままでおもてなしの心を持ってお出迎えし、釧路の魅力を全国に発信する大会にしたいと考えております。
- 加えて、2020年東京パラリンピック大会に向けて、市がホストタウンに登録しているベトナムのパワーリフティング選手団のプレ事前合宿を今月末より行うこととなりました。
- 観光分野では、まちなかの新たな夜の観光拠点として幣舞橋のライトアップや、

阿寒湖温泉では夜の国立公園の森でのデジタルアートプロジェクトなども予定されており、2020年に向け「観光立国ショーケース」の取り組みを加速させてまいります。

- 今年度より始まった、新たなまちづくりの指針である「釧路市まちづくり基本構想」の「重点戦略」である「まちの活力を高める経済活性化」を最優先の政策とし、「ひがし北海道の拠点都市・釧路」を次の世代にしっかりと引き継いでいけることができるように、着実に、そして力強く新たな釧路市のまちづくりにまい進してまいります。
- 本年も皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げ、年頭にあたってのご挨拶といたします。

## 2. 話題提供（1項目）

### 1. 釧路市中央図書館及び釧路文学館開設1周年について

- 中央図書館につきましては、昨年、2月3日に北大通へ移転・開館して以降、順調に運営を行っており、開館から昨年12月末までの利用者数につきましては約17万6,000人、資料の貸出冊数につきましては約32万8,000冊となっております。
- 設備が異なります旧市立釧路図書館との単純比較はできませんが、昨年同期より、利用者数につきましては3.9倍、貸出冊数につきましては1.9倍の増となっております。
- 特に7階の学習室につきましては、中高生を中心に延べ約7万3,000人の利用、旧図書館との比較では1.4倍の増となっております。
- また、今年度から学校図書館連携支援員を2名配置し、学校ブックフェスティバルの充実や読書活動サポートセットの活用など、学校図書館支援や子どもの読書活動推進に資する事業の充実を図っているところです。
- 6階に併設しております釧路文学館につきましては、開館からの入場者が延べ約1万4,000人となっており、常設展示のほかに、これまで4回の企画展示を行い、釧路ゆかりの作家の紹介をはじめ、文学により深く親しみ、興味をもっていただけるよう、情報発信に努めてきたところです。
- 1月26日（土）から4月21日（日）の期間、中央図書館と釧路文学館の開設1周年を記念いたしまして、釧路市出身の直木賞作家、桜木紫乃さんの作品を取り上げ、「緋の河 桜木紫乃が描く釧路」と題し、現在、北海道新聞で連載されている「緋の河」で描かれている背景を紹介する展示を開催いたします。
- あわせて、釧路を描いた作品、映画化やドラマ化された作品の関連資料の展示も行う予定としております。
- また、関連事業といたしまして、展示期間中に桜木さんの魅力を語るリレート

ーク、高校生による桜木作品の朗読会を行うとともに、「桜木紫乃にとっての直木賞」と題し、「直木賞受賞が桜木さんにどのような影響を与えたか」に焦点を当てたシンポジウムの開催も予定しております。

- 今後とも多くの利用者に親しまれ、さまざまな場面で活用される図書館を目指し、利用者ニーズに沿った図書館サービスを提供してまいりたいと考えております。

### 3. その他(1項目)

#### 1. 第74回国民体育大会「イランカラプテくしろさっぽろ国体」について

- いよいよ1月30日(水)から2月3日(日)までの5日間の日程で、「イランカラプテくしろさっぽろ国体」スケート競技会・アイスホッケー競技会が開催されます。
- 釧路市での冬季国体の開催は、平成22年の「くしろサッポロ氷雪大会」以来、9年ぶり4回目の開催となります。
- 今回の大会をより盛り上げていくため、大会事務局ではさまざまな開催のPRを行うとともに、鋭意準備を進めているところです。
- 1月7日(月)に、大会参加選手の申込みが終了したところであり、11日(金)には各競技の抽選会が行われ、組み合わせ等が決定することとなります。
- 参加選手数や北海道出身、釧路市選手、注目選手などの出場選手の情報につきましては、来週以降、日本スポーツ協会から発表となる予定です。
- 今後、開催地といたしましても、情報提供を行う予定でおりますので、大会期間中の取材及び報道等につきましてよろしく申し上げます。

### 4. 質疑要旨

(質問)

- ・ 中央図書館と釧路文学館の開設1周年記念事業である桜木紫乃さんの魅力を語るリレートークは、どのような方がお話しをされるのですか。

(生涯学習課長)

- ・ リレートークのメンバーは桜木紫乃さんと関わりの深い方々を中心に、FMくしろの天津パーソナリティー、桜木さんのファン代表で平野さん、文学研究者である釧路高専の小田島副校長、釧路演劇協議会の片桐会長の4名で行う予定です。

(質問)

- ・ 桜木紫乃さんご本人が登場する場面はあるのでしょうか。

(生涯学習課長)

- ・ シンポジウムなどで来釧いただけないかお話しをしているところですが、まだ確定していなく、わからない状況です。

(質問)

- ・ クレイنزの廃部につきまして、「鉏路市としても一体となって取り組むとともに、さまざまな情報収集に努めてまいりたい」とのことですが、「一体となって」とは、どのようなことでしょうか。

(市長)

- ・ クレイنزは設立から約70年の歴史があり、これまでの活動に感謝しているところです。地域の宝としての位置づけとして、いろいろな行事にも参加していただいております。クレインズをぜひとも存続していただきたいという考え方は署名活動を行っている方々と一緒です。これまで廃止となった西武や国土計画、雪印、古河電工のほか、東北フリーブレイズがどういった形で進められてきたかを情報収集しているところで、存続に向け署名活動を行っている方々と気持ちは一緒という意味で、「一体」という言葉を使わせていただきました。

(質問)

- ・ どういう形になるのが理想だと考えていますか。

(市長)

- ・ もちろん、そのまま存続するのが理想形です。今は、日本製紙としてさまざまな検討をいただいているところですので、私どもでは、氷都くしろでのクレインズの歴史を大事にしながら、存続できるかを情報収集しているところです。

(質問)

- ・ 日本製紙アイスアリーナのネーミングライツにつきましては、どのようなのですか。

(スポーツ課長)

- ・ 日本製紙アイスアリーナの命名権（ネーミングライツ）は2020年3月末まで契約が残っています。その件について、日本製紙からご相談があれば契約をどうするかということをご協議していきたいと考えています。

(質問)

- ・ 仮定の話ですが、契約を途中で解約となった場合、影響額はどのくらいですか。

(スポーツ課長)

- ・ 年間約350万円のネーミングライツ料をお支払いいただいておりますので、その分が減収となります。

(質問)

- ・ 署名活動は「クレインズが残ってほしい」と「クレインズではないかもしれないが鉏路にチームが残ってほしい」という意味があると思います。古河電工の廃部のときには、個人出資だけではなく栃木県など行政からの支援もありました。後継となる企業が出てくるかどうかもあるのですが、鉏路にチームを残すという観点でいくと、市民や企業の盛り上げ以外に、市としては財政的な支援も含めて考えていますか。

(市長)

- ・ 具体的な支援につきましては、今後、どういった動きが出てくるかによります。この街は氷都におけるクレインズの歴史があり、また、今まで多くの優秀なアイスホッケー選手が輩出されています。アイスホッケー、また、クレインズに対する想いというのがどこよりも強い地域だと考えています。その中で、存続に向け

た署名活動もあり、廃部が決まったものの日本製紙が今後どのような形をとるかということもありますことから、この氷都くしろとしてのアイスホッケーの歴史を踏まえ、現状としては一体となって進めていくものです。その次に具体的なことが出てくるものと思っています。今は、情報収集をしていながら、存続に向けた同じ立ち位置の中で考えていくものです。

(質問)

- ・ 日本製紙はチームや選手の引き受け先の確保に努力すると表明していますが、この段階で、市長が日本製紙と一緒に企業に声を掛けに行くとか、市として日本製紙と協力し歩調を合わせて動くことは何かありますか。

(市長)

- ・ 今の段階としては、日本製紙が責任を持っていろいろと進めていっていただいている中であり、さまざまな情報をいただきながら、大きい意味でのクレインズの存続に向けて一体となって進めているところです。今後、どういう形や動きとなるのかを見ながら具体的に進めていくことになると思っています。

(質問)

- ・ 情報収集や支援策の模索を担当する所管課というのは決まっていますか。

(市長)

- ・ 生涯学習部スポーツ課で情報をしっかり集めていきます。

(質問)

- ・ 地元企業から支援をしたいというような声が市に届いていますか。

(スポーツ課長)

- ・ 現在まで、私の方には来ていません。

(質問)

- ・ トップリーグのチームが無くなるということで、釧路のアイスホッケー競技そのものの低下などが考えられます。市として、子どもたちへの影響とか競技への影響などを、どのように考えていますか。

(市長)

- ・ クレインズがホームの釧路市に有って、選手の活躍する姿を間近で見ることができたことで、子どもたちの憧れも大きなものがあると考えています。これは本当に大切なことだと思っています。今、署名活動を集めている状況もあり、そこは我々も思いは同じです。次ぎにいろいろなことを考えていかなければいけないとのことで、情報収集しているというのが現状です。

(質問)

- ・ 公共交通網の再編やコンパクトなまちづくり、立地適正化計画でも重要な新橋大通は拠点の一つですが、イトーヨーカドー釧路店の1月20日閉店が決まって、今後、地域の核となる建物をどうしていくなど、現状の考えを教えてください。

(市長)

- ・ イトーヨーカドー釧路店について1月20日に閉店ということになり、大変残念な状況と思っています。ビルのオーナーは建物を存続して、機能的なところもしっかり確保していきたいということを表明されています。テナントの多くもそのまま入居すると伺っています。オーナーが後継店舗を探しているという状況と聞いていますので、私どもとしましては、そのところに大きな期待を抱きなが

ら、拠点としての取り組みなどを進めていこうと考えています。

(質問)

- ・ 後継店舗はどのような業種が望ましいと考えていますか。

(市長)

- ・ オーナーが後継店舗をしっかりと確保していくという表明をしており、そして今、テナントも入っている状況ですので、人が来ていただけるものという観点で進んでいるものと認識しています。

(質問)

- ・ 30年以上の歴史がある店舗の閉鎖ということで、あらためて市長の所感をお願いします。

(市長)

- ・ イトーヨーカドーに来ていただき、長い間、地域の生活のために、今まで取り組んでいただけてきたものですので、非常に残念という思いが強いです。経済は25年から30年ぐらいでさまざま変わってくるという変遷がありますけど、時代時代の中で、どういう形で持続というものを考えていくのかというのが、大きな課題と受け止めています。

(質問)

- ・ 国体につきまして、大会参加者の申し込みが終了しましたが、参加者数などはわかりますか。

(国体推進室長)

- ・ 日本スポーツ協会と同時に本市でも報道機関に発表する予定で、現在、その日程調整をしているところです。

(質問)

- ・ イトーヨーカドー釧路店の閉店やクレインズの廃部の話がある中で、国体の開催は明るい話題だと思います。地域の活性化に向け、釧路の魅力のあるところを見てほしいなど、国体にかける思いをお聞かせください。

(市長)

- ・ 競技役員含めて約3,000人の参加者を見込んでいます。釧路に来られる多くの皆さんに、長期滞在者数が北海道1位と全国ニュースでも取り上げられている夏の涼しい釧路と、あわせて氷都くしろとして、冬の魅力も発信していければと思います。長期滞在で来てくれている方々に、釧路の方々は本当に温かいと言ってもらっており、普段からのおもてなしの気持ちによって、釧路のPRができてくるものだろうと思っています。冬季国体が開催できることに非常に期待をしながら、そして多くの方にご参加いただいて、盛り上げていければと考えています。

(質問)

- ・ 釧路コールマインの経営自立化に寄与するものということで釧路火力発電所が建設されておりますが、年末に工期が11カ月延期となる発表がありました。市としてどう考えていますか。

(市長)

- ・ 釧路火力発電所の工事延期は冬期間等のさまざま理由の中で遅れるものです。計画どおりに進んでもらうのが一番でありますけど、安全に事故無くしっかりと

できるというのが最優先されるべきものと考えていますので、しっかりと進めていただきたいというのが、この地元自治体としての思いであります。釧路の火力発電所では釧路コールマインの石炭を使う地産地消となり、輸送費などの経費が削減されます。釧路コールマインが自立化に向けて取り組んでいる中で、国からの支援を得ながら、市や管内の自治体、北海道も含めて連携しながら進めてきたところですので、しっかりと火力発電所の当初の事業モデルを構築するため、釧路コールマインや北海道などと情報を共有しながら、いろいろな取り組みを進めていこうと考えています。

(質問)

- ・ 釧路火力発電所の中核となる事業会社F-Power（エフパワー）が事業用売電から撤退するという報道があるのですが、その影響は何か考えられますか。

(市長)

- ・ F-Power は道内の電気の調達価格の高騰のため、大口利用者向けから撤退するとのことですが、家庭向けについてはそのまま行くと聞いております。自前の発電所を持ち、調達コストを下げていくためにも釧路火力発電所は計画どおり進むという認識です。

(質問)

- ・ 商業捕鯨再開の動きがありますけど、市としてどう考えていますか。

(市長)

- ・ 政府では、捕鯨についてはしっかりと科学的根拠に基づいた形でのことが必要であると言っていることから、調査については、今後もしっかり行っていくものだろうと認識しております。

(質問)

- ・ 調査捕鯨は継続されるという認識ですか。

(市長)

- ・ そう思っています。科学的根拠というのは必要だとして、調査捕鯨を行ってきたものです。ただ、IWC（国際捕鯨委員会）では科学的根拠ではなく、保護のみを重視している状況になっており、手法として今回、IWC脱退ということがありますので、日本としては、しっかりと科学的根拠に基づいて行っていくものであろうと思っています。

(質問)

- ・ 市立釧路総合病院新棟建設につきまして、現在内部で新しい計画を検討していると思いますが、議論が進んでいるのかがなかなか見えてきません。他都市の例を見ると、市民の意見を取り入れるための機会を設けるなどの事例があります。内部の検討を進めたうえで市民の意見を聞くなど、さまざまな手法があると思いますが、前回と違う手法で進めていくという考えはありませんか。

(市長)

- ・ いろいろなことを行っていくのに、当然に市民の皆さまの理解が必要なことだと思っています。その中で市立病院新棟建設については、市民の皆さんのご理解をいただいていると考えています。つまり地方センター病院としてしっかりとした機能を持っていくということの中で、これから新しい緩和ケア病棟も含めた機能等を持っていこうという形の中で進めてきました。それをどのような形で進め

ていくのかという計画が、今回契約解除した実施設計ということでもありますので、大きい意味での市立病院の機能ということについてのご理解はいただいているものと考えております。次にどのように具現化していくのかということにつきましては、当然まず実際に医療を行っている先生方としっかりと話し合いながら進めていくことが重要であると考えています。どのような機能を持っていくのかということは議会の中でもお話しし、さまざまな報告をしているわけでもありますので、今後も市民の方々にしっかりと説明をしていきながら、新棟建設の計画を進めていこうと考えています。

(質問)

- ・ 新しい計画はいつごろになりそうですか。

(新棟建設推進室長)

- ・ 地方センター病院や救命救急センターなど、地域を支える根本の機能は変わらないもので、ここを維持していかなければこの地域の医療を支えていくことができないというところは揺るぎないこととして院内で協議を進めているところです。スケジュールにつきましては、まだお話しできる状況ではありませんけれども、揺るぎないところは揺るぎないところできちっと決まっているところで、それを踏まえたいうえで、建設までの手法につきましては、今後、他都市の事例を参考にしながら研究してまいりたいと考えています。

(質問)

- ・ 本来は新棟着工が始まっていたはずでしたが、計画の見通しがまだ立たないということは、何が課題になっているのですか。

(市長)

- ・ 新棟建設事業の実実施設計が白紙になったからです。基本計画という、どういう形で行っていくかというのはあるのですが、その次にそれを具体化していくためにどうするのかと考えてきたところだったのですが、もう一度その具体化に向けて真っさらな状況から進めていきたいと思いますということで行っています。当然当初の計画はさまざまな意見を組み入れていたものでありますけど、その前提を何一つ変えない中でやるということではなく、設計や積算のいろいろな考え方について、もう一度見直しをしながら進めていくということです。

(新棟建設推進室長)

- ・ これまでの協議内容という積み重ねはあります。ただ実際に図面化するときには全体的なバランスをとる作業や、機能的なところを更に良いものをとということもありますので、そういうところからきちっと行っていきたいと考えています。

(質問)

- ・ 北海道知事選挙につきまして、次の知事に求める役割など、釧路市長としてどう考えているかお聞かせください。

(市長)

- ・ 北海道に対する愛着があり、北海道の可能性やポテンシャル、北海道の強み、ここをしっかりと生かしていくために、全ての自治体と北海道が連携を取っていく方が理想で、望ましい形だと考えています。そして強い気概や意思を持つことが重要だと思っていますので、ぜひそういった素晴らしい方に出させていただいて、一緒になって盛り上げていければと思っています。